

| 第 24 回猪名川部会（2004.12.3 開催）結果報告                                                                                                 |                                           | 2005.1.7 庶務発信 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|---------------|
| 開催日時：                                                                                                                         | 2004 年 12 月 3 日（金）14：00～17：10             |               |
| 場 所：                                                                                                                          | 天満研修センター 9 F イベントホール                      |               |
| 参加者数：                                                                                                                         | 委員 10 名、河川管理者（指定席）12 名、一般傍聴者（マスコミ含む）107 名 |               |
| 1. 審議の概要                                                                                                                      |                                           |               |
| ①余野川ダムの調査検討に関する報告と意見交換                                                                                                        |                                           |               |
| 余野川ダムの調査検討について、河川管理者より資料 1－1「ダムの調査検討について」を用いた説明がなされた後、意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。                                               |                                           |               |
| ○開削案を提示したことについて                                                                                                               |                                           |               |
| ・第 8 回ダムWGで提出された案と異なっている。<br>←昭和 58 年 9 月洪水および総合治水対策目標洪水の両方をクリアできる対策案を提示した。（河川管理者）                                            |                                           |               |
| ・これまで開削しないことを前提に検討してきた。今回の報告により開削案が示されたが、河道掘削の規模が大きく、とまどっている。                                                                 |                                           |               |
| ・かつて、河川管理者は開削案を環境への影響を理由に却下したという経緯がある。方向転換する際は、自然環境等に対する危惧があり、検討して欲しい。                                                        |                                           |               |
| ・一庫ダムには農業用の不特定用水があるが、農業の実態が変化している。実態について調べていただいていると思うが、どの程度までわかっているのか。<br>←農業用水については、一度取水量の調査を実施したが、利用状況については調査していきたい。（河川管理者） |                                           |               |
| ・開削での解決は安易ではないか。流域対応も視野にさらなる検討を続けて欲しい。<br>←開削により下流に影響が生じるので対策を要すると認識している。流域対応も重要と考えている。（河川管理者）                                |                                           |               |
| ・河川の中での対策以外に、森林の保水力の活用など、河川の外の対策も含めて検討して欲しい。                                                                                  |                                           |               |
| ・多田神社周辺は橋脚が多いこと、市民の親水空間にもなっていること等にも配慮した検討をお願いする。                                                                              |                                           |               |
| ○開削案の内容について                                                                                                                   |                                           |               |
| ・資料の開削部の横断図だけでは掘削の具体的な姿がわかりにくい。開削によって景観がどう変わるかという図面はあるか。<br>←詳細は今後の検討となる。景観にも配慮する。（河川管理者）                                     |                                           |               |
| ・資料によると、戸の内地区では開削後に河床掘削を施しても越水してしまうが、そもそも開削案をとらない場合も破堤するのか。<br>←開削しない場合も氾濫する。また、資料を提出したい。（河川管理者）                              |                                           |               |
| ・余野川ダムの残りの事業費が 290 億円であるのに対し、河床の掘削は 260 億円ですみ、30 億円コストを低く抑えられるとされているが、河床掘削費用の根拠を示して欲しい。<br>←個別にかかる費用を積み上げて今回の数字となっている。（河川管理者） |                                           |               |
| ・下流から上流の整備に、工期はどの程度かかるのか。<br>←堤防強化を優先していくが、概ね 10 ヶ年で可能ではないか。                                                                  |                                           |               |
| ・掘削は 260 億円ですみ、ダムの残りの事業費 290 億円と比べてコストが小さいとされているが、下                                                                           |                                           |               |

流対策のために結局余野川ダムを作る必要があるのであれば、比較の考え方が変わってくるのではないか。

#### ○検討対象洪水について

- ・ 既往第 2 位の昭和 58 年 9 月洪水をクリアすれば良し、とするのは安易ではないか。

← 既往第 1 位が降雨量、降雨パターンともに特異な降雨であることから既往第 2 位以下を検討対象とした。第 1 位を目標とすると、ダム建設、開削とすべて実施しても不十分で、流域委員会も目標とするのはどうかという意見であった。(河川管理者)

- ・ 対象洪水が第 1 位から第 2 位に変更したことについて部会としてどのような意見を持っているか。

#### ○今後の展望について

- ・ この案で今回の目標はクリアできたとして、さらに大きい降雨が来たらどう対応するか。

← 今回は開削に焦点をあてて検討した。ここに示されているもの以外の上流対策、下流対策は引き続き検討する。(河川管理者)

- ・ 猪名川部会として余野川ダムは建設しない、という結論でよろしいか。

← 銀橋の上流に対しては開削で対応可能ということ。下流に対しては、河床掘削に加え、余野川ダムも効果はあるが、他にも検討したい。(河川管理者)

## 2. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 1 名より発言があった。主な意見は以下の通り (例示)。

- ・ 銀橋の上流に対しては開削に効果が認められる、という案はいずれ出てくると思っていた。今回は、これに加えて、開削により影響が生じる下流に対しては余野川ダムが効果あり、という資料が提出されている。雨の降り方によっては、戸の内地区では現状よりひどい結果となる可能性があり、これで解決したと安易に考えるべきではない。

以上

※このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。